

鹿島田地区における歴史を繋ぐ屋外空間の提案

BR16421 大原小百合
指導教員 鈴木俊治

1. 研究の目的

鹿島田地区においては、旧来のヒューマンスケールの街並みが残っており、その代表例として西口マーケットがある。それに隣接している新川崎地区は、マンション・オフィス・商業施設などがある。この2つの地区は調和しておらず、空間的/生活的にも分かれているが対比の面白さもある。本研究では両方の特徴と個性を調査すると共に、それらを活かした両者を繋ぐ屋外空間を提案する。

適切な緑の配置を。

人々が愛着の持てる街に。

2. 対象地—神奈川県川崎市鹿島田—

2-1. 新川崎・鹿島田地区の概要

鹿島田地区は神奈川県の北東部に位置する川崎市幸区に属す。JR南武線鹿島田駅 JR横須賀線新川崎駅2路線に挟まれる地域である。

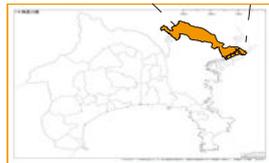


図1 対象地区の位置

表1 鹿島田人口(人)・世帯数(戸)
2017年3月時点

人口	7,400
世帯数	3,859

鹿島田地区はかつて工業地帯として栄え、新鶴見操車場は東洋一の規模を誇った。その後昭和59年頃には物流の主力がトラックになり、新鶴見操車場は信号所としての機能を残して貨物区が廃止された。現在でも往時の面影として低層の木造住宅が密集しヒューマンスケールが保たれ、木造マーケットである西口マーケット(戦後復興期~1960年代頃建設)がひっそりと姿を残している。一方隣接する新川崎地区には、大街区に高層オフィスビルと超高層マンションが建ち並んでいる。

2-2. 計画地の概要

新川崎三井ビルディングとパークタワー新川崎に面する広場的空間とパークタワー新川崎の地上商業施設の一部を今回の計画対象地とする。対象地の上には、鹿島田駅と新川崎を繋ぐペDESTリアンデッキが通っている。新川崎三井ビルディングはオフィスビルであり現在13の企業が入居している。パークタワー新川崎は超高層のタワーマンションであり1階~3階にテナントが入居している。対象地はビル風が強く、対象地内に緑はあるものの機能・景観共に有効とはいえない。

2-3. 対象地と周辺図



①西口マーケット ②パークタワー新川崎 ③鹿島田駅

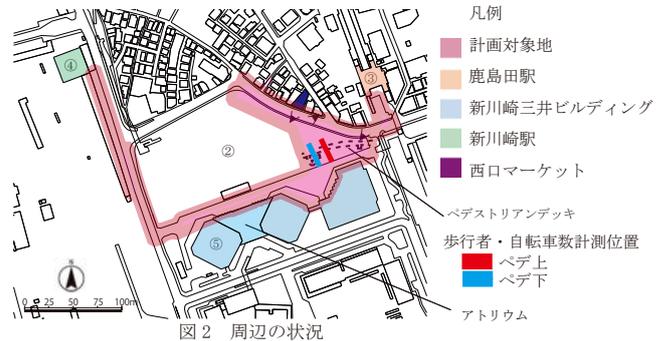


図2 周辺の状況

3. 調査

計画対象地及び周辺における人間活動の現況を把握するために、歩行者・自転車通行量調査及びアクティビティ調査を行った。その概要は以下のとおりである。

3-1. 歩行者・自転車通行量調査

平日2日間行った。その結果、新川崎駅と鹿島田駅を直結するペDESTリアンデッキ上と下の利用者数に大きな差があることが分かった。図2、3に示されている様に、ペDESTリアンデッキの下は上に比較して利用者が大幅に少なく、あまり利用されていないことが分かった。ペDESTリアンデッキの下に街灯が無いこと・歩きたくなる様な仕掛けが無いことが、利用者数の差を大きくしている原因と考えられる。

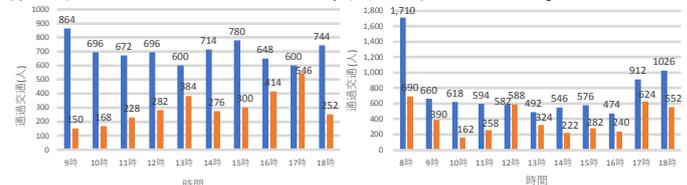


図3 通過交通量調査一日目
調査日:2018/10/8(月/祝)
時間:9:00~18:00
天候:曇り時々雨

図4 通過交通量調査二日目
調査日:2018/10/9(火)
時間:8:00~18:00
天候:快晴

3-2. アクティビティ調査

当該地区において滞在型アクティビティ調が最も多く見られた新川崎三井ビルディングのアトリウム及びその周辺のオープンスペースを対象として、アクティビティ調査を行った。調査日時は通行量調査と同じである。その結果以下のことが得られた。

表2 アクティビティ調査の結果分析

観察された事象	事象についての考察
・交通量は平日の方が多く、「会話」「スマホ」「飲食」等の滞留活動は休日の方が多く。	・平日まちにはいるが、通過が多く活動・滞留行動は少ない。
・座って一定時間滞在するアクティビティは少なく、立って短時間立ち止まる・散歩等のアクティビティが多い。	・屋外に滞在したり、室内の活動の街への活動表出環境が少ない。
・「会話」はすれ違いざまに挨拶をしたり、店先や家の前で立ち話をするなどの地域内コミュニケーションが多い。	・新住民・旧住民それぞれのコミュニティは密接。
・小さな子供を連れてくる母親(父親)が多い。複数人グループの場合、平均人数2.7人	・今後子供達の成長に合わせて利用できる場所が少ない。

表3 利用者別年齢・属性のアクティビティの特徴

小学生以下	夕方にかけて三輪車やサッカーボール等の遊び道具を持って歩いている。車道から近く危険。
中学生	夕方18:00頃から新川崎三井ビルディング内のアトリウムで勉強する姿が多く見られた。
会社員	・17:30頃に仕事が終わる真直ぐ駅へと向かう姿が多く見られた。 ・アトリウム内では、昼食時の会社員(単独)が席に座りきれず植え込み等に座る姿も多く確認された。

4. 問題提起

調査の結果

- ・座る場所が不足している
- ・屋外空間と周辺の建物との関係性が薄い
- ・緑が手入れされておらず、また歩行者動線を分断している
- ・ペDESTリアンデッキ下の広場は少ない

- ・現在通路としてしか利用されておらず、空間が活かされていない。



広場の改修、及び新川崎三井ビルディングの地上商業施設のリノベーションにより、人々が地上を歩き、滞留することで楽しめる空間とする。

5. 提案

5-1. コンセプト

現在、新川崎・鹿島田地区には、昭和時代の工業地帯の面影を残す西口マーケットと平成になって開発が進んだ新川崎三井ビルディングが併存しているが、それを繋ぐ空間はない。一方、かつて東洋一の規模を誇った新鶴見操車場の歴史は埋もれてしまっている。そこで、操車場を想起させる『レール』をデザイン要素として活用し、『レール』によって新旧のまちを繋げる広場のデザインを提案する。

5-2. デザインコンセプト

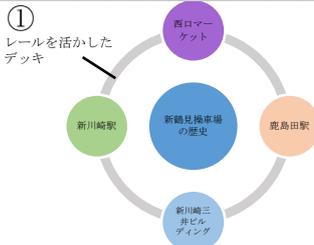


図5 デザインコンセプト図

新鶴見操車場レール跡のウッドデッキを設置、レールは鹿島田駅・新川崎駅・西口マーケット・新川崎三井ビルディングを繋ぐ。かつては貨車を繋いでいたレールが、これからは人を繋ぐ役割を担う。

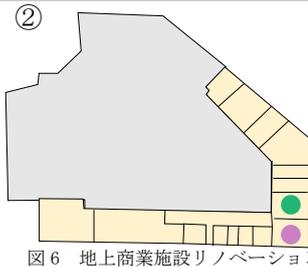


図6 地上商業施設リノベーション

● 子供の様子を見ることが出来るママ友の集まりが出来るガラス張りのカフェ

● 中高生が勉強をできるレンタル自習室



キッチンカー

キッチンカーを常設することで人を呼び込み滞留してもらおう。また曜日ごとに異なるテナントにすることで曜日ごとの楽しみをつくり出す。

⑤ 自転車と子供の接触事故を防ぐため、ウッドチップを敷き詰めることで自転車の通り抜けを防ぐ事が出来る。また、子供の転倒による怪我を防止の役割も果たす。

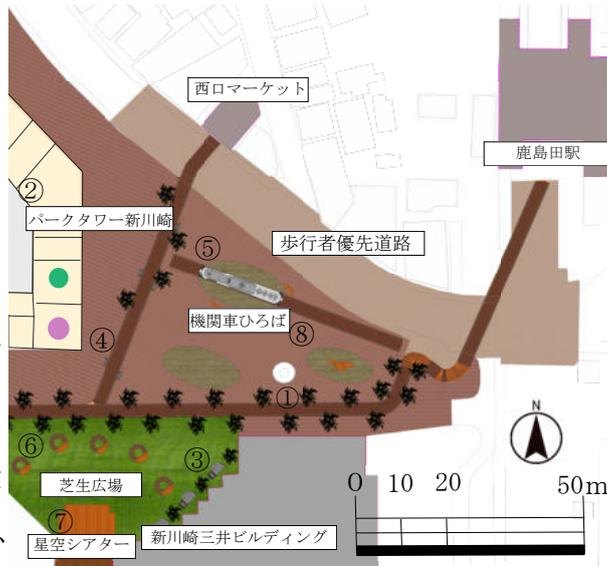


図7 全体計画図



トロッコ型花壇

かつて新鶴見操車場で石炭を運ぶのに用いられていたトロッコをイメージ。



円形ベンチ

アトリウムの利用実態より、昼食時の会社員(単独)が席に座りきれず植え込み等に座る姿も確認出来たため、広場には円形ベンチを設置。



星空シアター

毎週、スクリーンに映画を投影し芝生の上でくつろぎながら映画を鑑賞できるスペース。新住民・旧住民年齢を問わず人々が集える。



機関車ひろば

広場にかつて活躍していた機関車を設置し、子供達の遊び場にする。歴史を目で見て、遊びながら学ぶことが出来る。